

平成19年5月31日

## 平成18年度表彰について

社団法人におい・かおり環境協会  
表彰委員長 深 澤 修

平成18年度の表彰を平成19年度の定期総会において行うこととし、機関誌「におい・かおり環境学会誌」(平成18年9月号)および協会ホームページへの掲載により会員から表彰候補者推薦募集を行った。推薦者の中から各賞選考部会における検討結果を受けて表彰委員会で審議し、以下のとおり各賞の受賞者を決定した。

### 1. 功労賞 (敬称略)

功労賞は本会の会員であり、本会の発展に貢献もしくは、臭気に関する分野において特に優れた功績を認められた個人に、贈呈されるものである。

#### ○ 松尾 友矩 東洋大学 学長 (社団法人におい・かおり環境協会 前会長) (受賞理由)

松尾友矩氏は、平成7年から17年までの11年間、当協会の副会長、会長などを歴任され、常に高い識見と先見性をもって協会の発展に指導的役割を果たされた。特に、学会委員長として学会の充実に尽され、さらに副会長、会長になられてからは、協会名称の改称、臭気対策アドバイザー制度の立ち上げなど、時代の変化に対応した指導力を発揮されるとともに、長年懸案となっていた財政の立て直し、人的整備に多大の成果をあげられるなど、当協会の発展に尽くされた功績は誠に多大である。

### 2. 学術賞 (敬称略)

学術賞は本会の会員であり、においに関する論文、著作等学術的研究成果が特に優れた個人に、贈呈されるものである。

#### ○ 上野 広行 財団法人東京都環境整備公社 東京都環境科学研究所 調査研究科 主査 (受賞理由)

上野広行氏は、様々な臭気の調査研究に携わられ、それらの成果が嗅覚測定法の精度管理や現場の臭気対策指導にいかされてきた。特に三点比較式臭袋法を欧州規格の動的オルファクトメーター法と比較し、人間の嗅覚により測定する点では同じであるが、パネルの選定法や測定方法が異なっていることや、上昇法と下降法の違いで欧州規格の方が臭気指数で4程度低い値になる可能性を示唆している。これらは嗅覚測定法の科学的な裏付けのために大きく貢献したといえる。

(参考資料)『嗅覚閾値測定における下降法と上昇法の比較』, おい・かおり環境学会誌, 37巻1号, P15-P22 (2006).

### 3. 技術賞

(敬称略、順不同)

技術賞は本会の正会員、公共会員および賛助会員である法人、これらに所属する個人またはグループで、臭気に関する調査研究又は臭気対策技術等に関して顕著な貢献があったと認められる者に、贈呈されるもので次の6社に決定した。

#### ○ エステー化学株式会社 代表執行役社長 小林寛三

(受賞理由)

エステー化学株式会社は、芳香、消・脱臭剤等の製造、普及とこれらの安全性等の確保に努められた。また、今後生活環境等の密閉化、個室化等が進み、消費者の消費生活の高度化等もより進むであろうとの考えから『空気をかえよう』をスローガンに“空気”をあらゆる角度から科学し、“かおり”を研究する『日本かおり研究所』を設置し、外部研究機関と連携しながら広く社会に“かおり”を提供、提案すべく、精力的に取り組んでおられ、今後の成果が期待される。

#### ○ 株式会社島津製作所 常務取締役 中本 晃

(受賞理由)

株式会社島津製作所において識別装置『FF-2A』は、特性の異なる酸化物半導体センサーを用い、センサー出力の多変量解析でにおいを識別するだけでなく、においの強度および質を数値化する機能を有する。また、複数の基準ガスによる校正機能があるため、得られた測定結果に対し検証することができる。測定は自動測定や10分間隔で行えることから、人体に危険なガスの測定、24時間の連続的な測定などの利用が考えられ、臭気指数測定などの嗅覚測定を補完する形での利用が期待される。

(参考資料) 『におい識別装置』、におい・かおり環境学会誌, 37 巻 3 号, P173-P178 (2006)

#### ○ 第一種認定事業所

同	近江オドエアーサービス株式会社	代表取締役	石井康三
同	株式会社化学品分析センター	代表取締役	林 茂
同	株式会社環境管理センター	代表取締役社長	水落陽典
同	株式会社島津テクノロジー	代表取締役社長	西川幸夫

(受賞理由)

第一種認定事業所は、高い精度の嗅覚測定法および悪臭物質濃度の測定技術をもとに、近年の多様化した臭気問題に対して適切な資料を提供するとともに、臭気(悪臭)軽減製品・装置の開発支援に携わり社会的な臭気改善への要望に良く対応した。また、多くの試料採取や嗅覚測定法で蓄積した技術を、自治体や民間を対象とした研修会での指導等で技術の伝達と向上に貢献しており、制度理念である臭気測定法の技術水準向上、啓蒙、普及に努めている。

### 4. かおり環境賞

(敬称略、順不同)

かおり環境賞は本会の会員および会員外にかかわらず、良好なかおり環境の創出、保全に尽力し、地域のかおり環境の向上に顕著な貢献があったと認められる個人およ

び団体等に、贈呈されるもので次の2市1人に決定した。

○ **淡路市** 淡路市長 門 康彦

淡路市は、日本書紀の記述にも見られるように、お香との縁は深いが、伝統的な線香作りにとどまらず、今日ではハーブやポプリ、それにアロマテラピーといった西洋の香り文化を紹介する施設を設置して観光客を楽しませている。こうした試みは体験型の環境教育としても活用が可能であるとともに、日本全国からやってくる観光客と地域社会の人々の出会いの場としても機能している。こうした一連の取り組みは、わが国の地域社会の内発的発展のモデルケースとしての成果が期待される。

○ **北見市** 北見市長 神田孝次・**香り彩るまちづくり推進機構** 会長 高木 豊

北見市は、昭和初期に世界市場の70%を占めるに至った“はっか”の生産施設などを記念館として保存し、さらに“和はっか”の品種の保存にも力を入れている。地元で起きた“かおり産業”を絶やさないために観光に結びつけるなどして、次世代へ残していこうという市民を中心としての活動は、意義深いものがある。産業としては、衰退の一途をたどったが、歴史的な価値を残し、新たに観光事業としての取り組みに期待される。

○ **谷田貝 光克** 秋田県立大学 木材高度加工研究所 所長・教授

谷田貝光克氏は、農水省森林総合研究所（林業試験場）入所以来研究員として、また東京大学農学部教授、秋田県立大学教授として今日に至るまで、森林や樹木、木材に関する研究（植物のにおい成分の化学に関する研究、植物のにおい成分のヒトや生物に与える影響の研究、森林資源の有効利用に関する研究など）や教育、普及、推進、啓蒙活動を一貫して行ってこられた。同氏はこの分野のパイオニアの1人として高く評価されており、今後の活躍が期待される。